

#オオイタレキシ旅 2024

大分市内にあるとおきの文化財の魅力を届けます!

—第4弾—
たかせ 高瀬石仏

色鮮やかな異形の仏教神、高瀬石仏

高瀬石仏は、七瀬川自然公園の南方に位置する石窟仏です。色鮮やかな磨崖仏は、石窟の中にあるため保存状態も良く、当時の色彩がよく残っています。向かって右から馬頭観音坐像、如意輪観音坐像、胎蔵界大日如来坐像、大威徳明王坐像、深沙大将立像の5体の仏像が彫られています。

何よりも目を引くのは深沙大将という仏教神。炎髪を逆立て、額と胸の首飾りに鬘髻を付け、お腹に童女の顔、体に蛇を巻き付けたインパクトのある姿は、西遊記のモデルであるといわれています。他にも、6つの顔を持ち、水牛にまたがる大威徳明王、宝冠に馬頭を抱いた馬頭観音など、大分では珍しい密教の仏様が彫られている高瀬石仏は、身近に訪れることができる貴重な磨崖仏です。



Point

「大分市デジタルアーカイブ」ウェブサイトでは、高瀬石仏をはじめ市内6カ所の磨崖仏を3Dで見ることができます。



Access

所在地：高瀬901-1
※大分駅から車で約30分
駐車場：10台(無料)

文化財課 ☎578-7546

Next Journey!

今回は高崎山のサル生息地です。

Q 市報クイズ

○に入る言葉は何か？

○○○○○に入る鶴崎踊の歌詞は？

「来ませ ○○○○○ 鶴崎踊
いずれ劣らぬ花ばかり」

ヒントは、この市報の中にあります。

正解者の中から抽選で、大葉を使った加工品セットを3人にプレゼント！
※当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

応募方法

スマホはがきに、答え、住所、氏名、年齢、電話番号、市報の感想を記入し、8月15日(休)〈消印有効〉までに広聴広報課(〒870-8504 荷場町2-31 ☎537-5713)へ。

7月号「市報クイズ」の答え

道の駅たのうららに設置されている、かつて別大国道を走っていた大型展示物は？

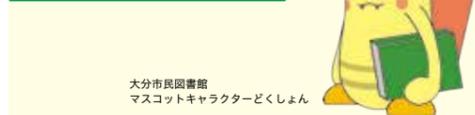
「路面電車」

今回の表紙は鶴崎おどり保存会の研修部の皆さん。歴史ある鶴崎踊を地元で大切に守っていこうと創設された保存会は今年で100周年。伝えられた踊りを次世代につないでいくために、日々技能を磨き、踊りの普及と後継者育成に取り組まれています。



今年の本場鶴崎踊大会は8月24日(土)、国道197号で開催。色とりどりの衣装と優雅な踊り、囃子の音色が織り成す華やかな一夜、ぜひ会場でお楽しみください。

市民図書館からのお知らせ



どくしょんワークショップ 好きな本のPOPを作ろう！ 無料

日時：8月10日(土) 午前10時～正午
場所：大分市民図書館2階 会議室
対象：市内小学生…10人(要事前申込み)
申込み：直接または電話で、8月1日(木)から市民図書館へ。

さまざまな場所で 本の受け取り、返却ができます

本の予約時に場所を指定すれば、市民図書館だけでなく、市民行政センターや地区公民館の図書室、校区公民館で受け取りや返却ができますので、ご利用ください。

市民図書館 ☎576-8241



100円ショップなどで手に入る材料を使って、自然災害や事故が起きる仕組みを学びませんか。実験模型の作り方やプレゼンのポイントもあり、自由研究にも役立ちます。動画を視聴できる二次元コード付きです。

藤井俊逸…著
日経BP

ドボク模型
大人にも子どもにも伝わる
最強のプレゼンモデル

人権・同和教育シリーズ 548

その店員さんのことが気になり、思わず友人に「ねえ、あの店員さん、外国人なのに日本語上手にしゃべれるんだね」と言ったのです。すると友人は「それって『外国人は日本語上手にしゃべれない』って決めつけてない？」と聞いてくるのです。てっきり同調してくれるかと思っていただけは「いや、ほめようと思って、つい」と答えるのが精いっぱいでした。

すると友人は「この間、講演会の話聞かせてくれたでしょ。思い込みや決めつけが人を傷つけることがあるって」と言うのです。わたしはドキツとしながら、その講演会を思い出したのです。わたしはわが子のことで悩んでいたのですが、性の多様性をテーマにした講演会に参加したのでした。その内容は、講師が小さい頃に、女の子の友だちの家に遊びに



先日、久しぶりに友人と出掛けたときのことです。買い物を楽しんだわたしは、カフェで休憩しようと店内に入り、店員さんに注文をしました。わたしは

行ったとき、その親に「男の子なのに、お人形遊びするなんてね」と言われ「自分はおかしいのかな」と悲しい気持ちになったという話でした。

友人はその講演会の話を中心に留めてくれたのです。そして続けて言うのです。「買い物しているときに『あの人、お年寄りなのに派手な服装だよ』って言ったの覚えてる？ これも勝手な決めつけじゃないかな。わたしの親も高齢だけど自分らしく好きな格好してるから」と。わたしはもう一度ドキツとしながら確かに自分が無意識に言ったことを思い出したのでした。

講演会の「男の子なのに…」という言葉には、自分のことのように憤りを覚え、友人に話していたにもかかわらず、わたしは同じように「○○なのに」と決めつけていたのです。気付かせてくれた友人に感謝しながら、自分をもう一度見つめ直そうと感じたのでした。

わたしたちは、無意識に「○○なのに」と人を判断してしまうことがあります。それが言動に表れたとき、相手を傷つけることにつながるかもしれません。日ごろから多面的な見方・考え方ができるよう、自分を振り返ってみませんか。